

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

Accent of numerals in the Hinase dialect, Okayama prefecture

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-09-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中井, 幸比古 メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/508

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



岡山県日生方言における数詞のアクセント

中 井 幸比古

要旨 岡山県日生方言の数詞のアクセントを、浜野博氏の内省報告に基づいて記述する。日生方言は内輪東京式アクセントに属するが、2拍名詞2類に1型が目立つこと、特殊拍にも核が置かれること、他方言の対応から予想されない語にも、語末核型が現れるなどの特色を持っている。数詞のアクセントについても、これに関係すると思われる現象がみられる。数詞に関する限り、この方言で独自に起こった変化の結果かと考えられる。

はじめに

岡山県日生方言における数詞のアクセントを記述する。日生方言については中井(2002b)で1～3拍名詞・動詞形容詞の基本形について記述を行った。本稿はその続報である。但し、そこで日生方言と同時に扱った寒河方言については、本稿では扱わない。

資料提供は、中井(2002b)のお一人の、日生本町出身の浜野博氏(1941年生)である。前稿同様、浜野氏が内省によって、高低二段階表記でアクセントを記録してくださった資料に基づき、考察を行う。浜野氏の御厚意がなければ本稿はなかったものであり、心から御礼を申し上げる。

なお、浜野氏によれば、日生(ヒナセ)という地名は、氏の祖父父母の代くらいまでは地元でヒナシが普通だったのではないかとのことである。

この方言のアクセント体系・音調型については中井(2002b)で述べたが、

再説しておく。

言うまでもなく、下げ核の有無と位置によって弁別される体系である。句頭の上昇位置については、1型を除き(1型は「○'○○...), 第2拍の分節音によって音調に相違が生じる。即ち、①通常は第1拍と第2拍の間で上昇するが、②第2拍がー・ン・2重母音のイの場合は第1拍から高くなり(Hを付す)、③第3拍が促音の場合は第2拍と第3拍の間で上昇する(Lを付す)。

上記②の2重母音については、形態素の切れ目があれば、普通は①第2拍から高だが(例: トイロ 十色 0 ト「イロ), 時に2重母音として扱われることもあるようである(例: 茶色 0H「チャイロ)。

浜野氏は、促音を含む音節に核がある場合、促音まで高いと内省される。核は音節全体にあるが、中井(2002b)では、かりに促音の前の拍にあるものとして表記した。本稿では、かりに、促音に核があるとして表記する。このほうが、本稿で扱う数詞については、アクセントの規則性が見えやすいからである。なお語頭の音節に核がある場合の音調は、「○ツ'○…となる。

数詞のアクセントは逆算指定すると規則性が明らかになることが多いので、それも必要に応じて併記する。逆算指定の場合は核の位置のみの表示とし、H・Lの記号は省略する。

4拍までの音調型を一覧する。ここで、「は大幅な上昇、'は大幅な下降、○は自立語の拍、▽は付属語の拍である。

1拍0	1拍1
○「▽	「○'▽
血	手

第2拍が	2拍0	2拍1	2拍2	3拍0	3拍1	3拍2	3拍3
通常の拍	○「○▽	「○'○▽	○「○'○▽	○「○○▽	「○'○○▽	○「○'○▽	○「○○'▽
	鳥	窓	山	車	五号	朝日	鏡

第2拍が	2拍0H	-	2拍2H	3拍0H	-	3拍2H	3拍3H
ー・ン・2重母音イ	「○○▽		「○○'▽	「○○○○▽		「○○'○▽	「○○○○'▽
	灸, 運, 甥		-, 三, 貝	鸚鵡, 暗記, 間		行李, 本気, 蚕	扇, 女, 相手

第2拍が 促音ッ	-	-	-	3拍0L 〇〇「〇▽ 夫	-	-	3拍3L 「〇〇「〇▽ 切手
第2拍が 通常の拍	4拍0 〇「〇〇〇▽ 一色(ヒトイロ)	4拍1 「〇'〇〇〇▽ 三月	4拍2 〇「〇'〇〇▽ 一月(ヒトツキ)	4拍3 〇「〇〇'〇▽ 七箇所	4拍4 〇「〇〇〇'▽ 七貫		
第2拍が 一ツの重母音イ	4拍0H 「〇〇〇〇▽ 三年	-	4拍2H 「〇〇'〇〇▽ 六キロ	4拍3H 「〇〇〇'〇▽ 九箇所	4拍4H 「〇〇〇〇'▽ 三貫		
第2拍が 促音ッ	4拍0L 〇〇「〇〇▽ 六階	-	-	4拍3L 〇〇「〇'〇▽ 六箇所	4拍4L 〇〇「〇〇'▽ 六貫		

以下, (1)漢語系の数字, (2)和語系の数字, (3)漢語系の数字+助数詞, (4)和語系の数字+助数詞, (5)その他の順に記述を行う。

1 漢語系の数字

漢語系の数字のアクセントを以下に掲げる。

イチ	一	2	-1	サンジュー	三十	1	-4
ニ	二	1	-1	ヨンジュー	四十	1	-4
サン	三	2H	-1	シジュー	四十(年齢)	3*	-1
シ	四	1	-1	ゴジュー	五十	3*	-1
ヨン	四	1	-1	ロクジュー	六十	4*	-1
ゴ	五	1	-1	ナナジュー	七十	2	-3
ロク	六	2	-1	ヒチジュー	七十(年齢)	4	-1
ヒチ	七	2	-1	ハチジュー	八十	4*	-1
ナナ	七	1	-2	キュージュー	九十	1	-4
ハチ	八	2	-1	クジュー	九十(年齢)	3*	-1
ク	九	1	-1	ヒャク	百	2*	-1
キュー	九	1	-2	ニヒャク	二百	2	-2
ジュー	十	1	-2	サンビャク	三百	1	-4
				シヒャク	四百	2	-2
				ヨンヒャク	四百	1	-4
ニジュー	二十	2	-2	ゴヒャク	五百	2	-2

なお, 一から十までは数字の列挙では
すべて1型でも言う。

ロツピャク	六百	3L	-2	キューセン	九千	3H	-2
ナナヒャク	七百	2	-3	イチマン	一万	3	-2
ヒツチャク	七百	3L	-2	ニマン	二万	2	-2
(ヒチヒャク	七百とは言わないが	3	-2)	サンマン	三万	3H	-2
ハツピャク	八百	3L	-2	ヨンマン	四万	3H	-2
キューヒャク	九百	1	-4	ゴマン	五万	2	-2
セン	千	1	-2	ロクマン	六万	3	-2
ニセン	二千	2	-2	ナナマン	七万	3	-2
サンゼン	三千	3H	-2	ハチマン	八万	3	-2
ヨンセン	四千	3H	-2	キューマン	九万	3H	-2
ゴセン	五千	2	-2	ジューマン	十万	3H	-2
ロクセン	六千	3	-2	ヒャクマン	百万	3	-2
ナナセン	七千	3	-2				
ハッセン	八千	3L	-2				

ここで、*は副詞的用法（動詞を修飾する）で無核化することを示す。「六十」は4*なので、「六十有った」は口「クジューアツタとなる。この方言では、副詞的用法の無核化は、語末核型（尾高型）の数詞・数詞+助数詞にのみ見られる。

ヨン・ナナは和語系だが、シ・シチの代わりに漢語系に入り込んでいるので、こちらで（も）扱う。

「二十～九十」は-ジューの-1型が優勢ながら、サン・ヨン・ナナ・キューが例外となる。一般に、ヨンジュー・ナナジュー・キュージューは新しい語形で、古くはシジュー・ヒチジュー・クジューだったから（田野村1990など）、かつては、サンのみが例外であったと思われる。中央式では「二十」を除き-2型が古形だと思われるから、-1型は、それと核の位置が1拍後にずれるという対応関係にあることになる。

一方、「二百～九百」はほぼヒャク（ヨンとナナは例外）で、「二千～九千」はゼンで、「一万～百万」はマンで統一されている。

なお、角道(1985)によれば、岡山方言では「二十～九十」「二百～九百」「二千～九千」「一万～百万」のすべてが-2型で統一されているが、こちらのほうが新形であろうか。

但し、「五、九（ク）、三」がすべて-1型で出ているが、共通語・中央式との対応関係からは0型が予測されるところであり、-1型は日生方言でのみ起こった変化の結果できたアだと思われる。中井(2002b)で報告したように、日生方言では-1型が好まれる。日生における「二十～九十」の-1型も、これと関係している可能性がある。

2 和語系の数字

和語系の数字はほぼ-2型で統一されている（例外は、ココノツのみ）。

ヒトツ	一つ	2	-2	フー	二	1	-2
フタツ	二つ	2	-2	ミー	三	1	-2
ミツツ	三つ	2H	-2	ヨー	四	1	-2
ヨツツ	四つ	2H	-2	ヨン	四	1	-2
イツツ	五つ	2	-2	イー	五	1	-2
ムツツ	六つ	2H	-2	イツ	五	1	-2
ナナツ	七つ	2	-2	ムー	六	1	-2
ヤツツ	八つ	2H	-2	ナー	七	1	-2
ココノツ	九つ	2	-3	ヤー	八	1	-2
トー	十	1	-2	コー	九	稀 1	-2
				ココ	九	稀 1	-2
数えるとき				コノ	九	1	-2
ヒー	一	1	-2	トー	十	1	-2

「三つ、四つ、六つ、八つ」(2H)が共通語(3)と違っている。数詞のアクセントを統一する変化の結果であろうか。それとも、2拍2類名詞に準ずる対応を示すものだろうか：日生方言で2拍2類は2と1が相半ばし、「三つ」以下の2Hは後者に準ずる。もしそうだとすれば興味深い。

3 漢語系数字+助数詞

原則として、「一～十、百、千」に助数詞を付けたものを調べた。助数詞は、拍数別とし、各々の拍数の中でアクセントを分類し、その分類した各グループに1つの助数詞のアクセントを例示する。当該グループに属する他の

助数詞は、アクセント・語形を類推できる。

語形が、例示したものと異なる場合は（ ）の中に示す。例えば、下記 1 拍 a で、「時（ジ）」は、アクセントを例示した「位」と異なり、「ヨンジ、ナナジ、キュージ」ではなく、かつ／または、「ヨジ、ヒチジ、クジ」なので、それを（ ）の中に示した。

大きな数字になると言いにくくなる助数詞については、調査した範囲を、注記するか、例示の際に示す。

3. 1 1 拍の助数詞

1 拍の助数詞は、a「低接型（促音化なし）」、b.「低接型（促音化あり）」、c.「-1 型」の 3 種に分かれる。ここで、促音化の有無は分節音に関わる現象であるが、語形が変わることでアクセントにも影響を与えるので、分類の基準とした。以下同様である。

3 種の分類のうち、a または b に属するものが大部分で、c は、今のところ回数を示す「度（ド）」しか例が見つかっていない。「0 型」（無核になるもの）は 1 拍の助数詞には見つかっていない（但し稿末の「～畳間」がこれに準ずるものか）。

a b の低接型は助数詞が原則として低接するものである。サン、ヨン、キュー、センは例外で核の位置が左に 1 拍ずれるが、このうちヨン・キューは起源が新しいことと関係するかもしれない、真の例外はサン・センのみとなる。サン・センは 2 拍の助数詞には例外とならないものもあり（後述）、それが古形だとすれば、古くからの例外はわずかだったのかもしれない。なお、この方言では特殊拍ーンイに核が置かれる語例は数多くある。

c の -1 型は助数詞の末尾に核がある（-1 型）ものであるが、全ての数詞で綺麗に -1 型にまとまっている。共通語では、この「度」は「一・五・六」のみが -1 型で他はそれとは違う型となる。中井(2002b)で述べたように、日生方言は -1 型を好む傾向があるので、この方言で、他の型から -1 型に統一

するような変化が起こったものかもしれない。

a 「低接型（促音化なし）」 位（イ。順位），時（ジ。ヨジ1，ヒチジ2，クジ1），度（ド。温度），部（ブ。雑誌），分（ブ。長さ），里（リ。距離。ヨリ1，ヒチリ2，クリ1），羽（ワ，バ，パ。一部促音化）

イチイ	一位	2	-2	ナナイ	七位	2	-2
ニイ	二位	1	-2	ハチイ	八位	2	-2
サンイ	三位	1	-3	キューイ	九位	1	-3
ヨンイ	四位	1	-3	ジューイ	十位	2H	-2
ゴイ	五位	1	-2	ヒャクイ	百位	2	-2
ロクイ	六位	2	-2	センイ	千位	1	-3

b. 「低接型（促音化あり）」 個（コ。方言形コン），区（ク。地区），種（シュ。種類），歩（ホ，ポ）

イッコ	一個	2H	-2	ハチコ	八個	2	-2
ニコ	二個	1	-2	ハッコ	八個	2H	-2
サンコ	三個	1	-3	キューコ	九個	1	-3
ヨンコ	四個	1	-3	ジッコ	十個	1	-3
ゴコ	五個	1	-2	ヒャッコ	百個	2H	-2
ロッコ	六個	2H	-2	センコ	千個	1	-3
ナナコ	七個	2	-2				

c. 「-1型」 度（ド。回数）

イチド	一度	3	-1	ナナド	七度	3	-1
ニド	二度	2	-1	ヒチド	七度	3	-1
サンド	三度	3H	-1	ハチド	八度	3	-1
ヨンド	四度	3H	-1	キュード	九度	3H	-1
ヨド	四度	2	-1	ジュード	十度	3H	-1
ゴド	五度	2	-1	ヒャクド	百度	3	-1
ロクド	六度	3	-1	センド	千度	3H	-1

3.2 2拍の助数詞

2拍の助数詞は以下の7種に分けられる：a 低接型（促音化なし），b 低接型（促音化あり），c-2型（促音化なし），d-2型（促音化あり），e-1

型（促音化なし）、f-1型（促音化あり）、gその他。

このうち、a bの低接型は所属語彙が多い。1拍の助数詞と同様である。やはり、サン・ヨン・キュー・センが例外となつて、核の位置が1拍左にずれる。但し、サンは、正規の低接型をとる助数詞もある（「円・垓・銭」など）。1拍のところで述べたように、これがもし古形だとして、起源の新しいヨン・キューを除けば、かつては、「千」のみが例外であったのかもしれない。

c dの-2型は、所属語彙がごく少ないが、「箇所」のような漢字2字のもの以外にも少数ながら語例がある。

e fの-1型も、低接型とともに、所属語彙が多い。1拍とは異なる特徴である。ヨン・キュー・センが例外となる（サンは例外ではなく正規の-1型におさまる）。ヨン・キューの起源が新しいとすればセンのみがかつての真の例外となる。共通語アクセントでは、「一・六・八・十」のみ-1型となるものがあり、fはほぼそれに対応しているが、この方言のようにほとんど-1型で統一されている助数詞はない。（なお、eは共通語アクセントでは-1[音節単位]が全く現れないものばかりである。偶然であろうか）。1拍の助数詞cと同様に、この方言内部で-1型への収斂がおこつたのであろう。

gその他は、複数のタイプの中間的なもの・併用を掲げた。注目すべきは、上記a～eに加えて、0型が現れる物があることである：④階，⑥年。このうち、「階」の0型は共通語的のようなので、この方言本来の0型は「年」に限られる。この方言の助数詞は共通語に比べて0型が非常に少ないと言える。中井(2002b)で述べたように、助数詞のみならず、一般に、中央式・共通語で0型で対応する語が、この方言で-1型などになっている例がかなり目立つ。

以下、それぞれについて述べる。

a「低接型（促音化なし）」 円（サンエン2H，ヨエン1，センエン2H），月（ガツ。12まで。ジューチガツ4H，ジュニガツ3H），号（ゴー），代（ダイ。ヨダイ1，クダイ1），割（ワリ），垓（ルイ。三まで。サンルイ2H）

イチゴ	一号	2	-3	ヒチゴ	七号	2	-3
ニゴ	二号	1	-3	ハチゴ	八号	2	-3
サンゴ	三号	1	-4	キューゴ	九号	1	-4
ヨンゴ	四号	1	-4	ジュゴ	十号	2H	-3
ゴゴ	五号	1	-3	ヒャクゴ	百号	2	-3
ロクゴ	六号	2	-3	センゴ	千号	1	-4
ナナゴ	七号	2	-3				

b 「低接型（促音化あり）」 キロ(km, kg。イチキロ2, ニキロ2, ゴキロ2), 斤(キン, ギン), 間(ケン。サンゲン4H, 1), コン(「個」の方言形。ニーコン2H, ゴーコン2H) 升(シヨ。九まで。サンジヨ-4H, ロクシヨ-2), 銭(セン。サンセン2H, ロクセン2), 反(タン。ロクタン2), 丁(チヨ。距離, 拳銃。ロクチヨ-2), 頭(ト。ロクト-2), 匹(ヒキ, ピキ, ビキ)

イッキン	一斤	2H	-3	ハチキン	八斤	2	-3
ニキン	二斤	1	-3	ハッキン	八斤	2H	-3
サンギン	三斤	1	-4	キューキン	九斤	1	-4
ヨンキン	四斤	1	-4	ジッキン	十斤	1	-4
ゴキン	五斤	1	-3	ヒャッキン	百斤	2H	-3
ロッキン	六斤	2H	-3	センギン	千斤	1	-4
ナナキン	七斤	2	-3				

c 「-2型(促音化なし)」 面(メン。テニスコート。九は例外)

イチメン	一面	3	-2	ナナメン	七面	3	-2
ニメン	二面	2	-2	ハチメン	八面	3	-2
サンメン	三面	3H	-2	キューメン	九面	1	-4
ヨンメン	四面	3H	-2	ジュメン	十面	3H	-2
ゴメン	五面	2	-2	ヒャクメン	百面	3	-2
ロクメン	六面	3	-2	センメン	千面	3H	-2
ヒチメン	七面	3	-2				

d 「-2型(促音化あり)」 箇所(カシヨ。カシヨで統一), 分(フン, プン。キューフン 3H, 1。調査は百まで)

イッカシヨ	一箇所	3L	-2	ハチカシヨ	八箇所	3	-2
ニカシヨ	二箇所	2	-2	ハッカシヨ	八箇所	3L	-2
サンカシヨ	三箇所	3H	-2	キューカシヨ	九箇所	3H	-2
ヨンカシヨ	四箇所	3H	-2	ジッカシヨ	十箇所	3L	-2
ゴカシヨ	五箇所	2	-2	ヒヤッカシヨ	百箇所	3L	-2
ロッカシヨ	六箇所	3L	-2	センカシヨ	千箇所	3H	-2
ナナカシヨ	七箇所	3	-2				

e 「-1 型 (促音化なし)」 行 (ギョー), 合 (ゴー。九まで。サンゴー1も), 畳 (ヨジョー3H, キュージョー1, センジョー4H), 台 (ヨダイ3, センダイ1), 段 (ヨندان1, ヨダン3, キューダン1, クダン3), 倍 (パイ), 流 (リユー。三まで)

イチギョー	一行	4*	-1	ヒチギョー	七行	4*	-1
ニギョー	二行	3*	-1	ハチギョー	八行	4*	-1
サンギョー	三行	4H*	-1	キューギョー	九行	4H*,1	-1,-4
ヨンギョー	四行	4H*,1	-1,-4	ジューギョー	十行	4H*	-1
ゴギョー	五行	3*	-1	ヒヤクギョー	百行	4*	-1
ロクギョー	六行	4*	-1	センギョー	千行	4H*,1	-1,-4
ナナギョー	七行	4*	-1				

f 「-1 型 (促音化あり)」 回 (カイ), 画 (カク), 貫 (カン, ガン), 級 (キュー。十まで), 曲 (サンキョク4H,1, ナナキョク4,2も), 冊 (サツ。キューサツ1), 尺 (シャク。ヨンシャク1, キューシャク1), 寸 (スン。ヨンスン1, キュースン1。クスン3), 足 (ソク, ゴク。ヨンソク1, キューソク1), 着 (チャク。ヨンチャク1, キューチャク1), 点 (テン。ヨンテン1, キューテン1), 等 (順位), 泊 (ハク, パク), 服 (薬。フク, ブク。ヨンブク1, キューフク1), 遍 (回数。ヘン, ペン, ベン。シヘン3)

イッパク	一泊	4L*	-1	ナナハク	七泊	4*	-1
ニハク	二泊	3*	-1	ハツパク	八泊	4L*	-1
サンパク	三泊	4H*	-1	キューハク	九泊	4H*,1	-1,-4
ヨンパク	四泊	4H*,1	-1,-4	ジツパク	十泊	4L*	-1
ゴハク	五泊	3*	-1	ヒヤツパク	百泊	4L*	-1
ロツパク	六泊	4L*	-1	センパク	千泊	1	-1,-4

g その他

① -1型と低接型の併用(促音化あり) 色(シヨク), 食(シヨク), 節(セツ)

イッシヨク	一色	4L*	-1	ナナシヨク	七色	4*,2	-1,-3
ニシヨク	二色	3*,1	-1,-3	ハッシヨク	八色	4L*	-1
サンシヨク	三色	4H*,1	-1,-4	キューシヨク	九色	4H*,1	-1,-4
ヨンシヨク	四色	4H*,1	-1,-4	ジッシヨク	十色	4L*	-1
ゴシヨク	五色	3*,1	-1,-3	ヒャクシヨク	百色	4*	-1
ロクシヨク	六色	4*,2	-1,-3	センシヨク	千色	1	-4

② -1型と低接型の中間(促音化なし) 番(バン), 枚(マイ)

イチバン	一番	2	-3	ヒチバン	七番	2	-3
ニバン	二番	1	-3	ハチバン	八番	2	-3
サンバン	三番	4H	-1	キューバン	九番	1	-4
ヨンバン	四番	1	-4	クバン	九番	3H*	-3
ヨバン	四番	3H*	-1	ジューバン	十番	2H	-3
ゴバン	五番	3H*	-1	ヒャクバン	百番	2	-3
ロクバン	六番	2	-3	センバン	千番	1	-4
ナナバン	七番	2	-3				

③ -1型と低接型の中間(促音化あり) 杯(ニーハイ 2H, シーハイ 2H, ゴーハイ 4も), 本(ホ, ポン, ボン)

イッポン	一本	1	-4	ヒチホン	七本	2	-3
ニホン	二本	1	-3	ハチホン	八本	2	-3
サンボン	三本	4H*	-1	ハッポン	八本	1	-4
ヨンホン	四本	1	-4	キューホン	九本	1	-4
シホン	四本	1	-1	ジッポン	十本	1	-4
ゴホン	五本	3*	-1	ヒャッポン	百本	1	-4
ロッポン	六本	1	-4	センボン	千本	1	-4
ナナホン	七本	2	-3				

④ -1型と0との併用 階(カイ)

イッカイ	一階	0L,4L*	-0,-1	ゴカイ	五階	0,3*	-0,-1
ニカイ	二階	0,3*	-0,-1	ロッカイ	六階	0L,4L*	-0,-1
サンガイ	三階	0H,4H*	-0,-1	ナナカイ	七階	0,4*	-0,-1
ヨンカイ	四階	0H,4H*,1	-0,-1,-4	ヒチカイ	七階	0,4*	-0,-1

ハツカイ	八階	0L,4L*	-0,-1	ジツカイ	十階	0L,4L*	-0,-1
ハチカイ	八階	0,4*	-0,-1	ヒャツカイ	百階	0L,4L*	-0,-1
キューカイ	九階	0H,1,(4?)	-0,-4,(-1?)				

⑤-2型と低接型との併用 歳(サイ)

イッサイ	一歳	3L	-2	ナナサイ	七歳	3,2	-2,-3
ニサイ	二歳	2	-2	ハッサイ	八歳	3L,2H	-2,-3
サンサイ	三歳	3H	-2	キューサイ	九歳	3H,1	-2,-4
ヨンサイ	四歳	3H,1	-2,-4	ジッサイ	十歳	3L,1	-2,-4
ゴサイ	五歳	2,1	-2,-3	ヒャクサイ	百歳	3	-2
ロクサイ	六歳	3,2	-2,-3	センサイ	千歳	1	-4

⑥低接型と0型の中間 年(ネン。年数, 学年)

イチネン	一年	2	-3	ヒチネン	七年	2	-3
ニネン	二年	1	-3	ハチネン	八年	2	-3
サンネン	三年	0H	-0	クネン	九年	0	-0
ヨネン	四年	0	-0	キューネン	九年	1	-4
ゴネン	五年	0	-0	ジューネン	十年	2H	-3
ロクネン	六年	2	-3	ヒャクネン	百年	2	-3
ナナネン	七年	2	-3	センネン	千年	1	-4

3.3 3拍の助数詞

すべて「-3型」に属する。

a 「-3型(促音化なし)」 学期(ガツキ。1~3まで), 時間(ジカン),
ダース, 拍子(ビョーシ。音楽。1~4まで)

イチジカン	一時間	3	-3	ナナジカン	七時間	3	-3
ニジカン	二時間	2	-3	ヒチジカン	七時間	3	-3
サンジカン	三時間	3H	-3	ハチジカン	八時間	3	-3
ヨジカン	四時間	2	-3	クジカン	九時間	2	-3
ゴジカン	五時間	2	-3	ジュージカン	十時間	3H	-3
ロクジカン	六時間	3	-3	ヒャクジカン	百時間	3	-3

b 「-3型(促音化あり)」 回忌(カイキ。一, 三, 七, 百のみ調査), ケ
月(カゲツ), 種類(シュルイ), センチ(cm), ページ(頁。イチページ3,

イッページ3L, ロッページ3L, ハッページ3Lも)

イッシュルイ	一種類	3L	-3	ナナシュルイ	七種類	3	-3
ニシュルイ	二種類	2	-3	ハッシュルイ	八種類	3L	-3
サンシュルイ	三種類	3H	-3	キューシュルイ	九種類	3H	-3
ヨンシュルイ	四種類	3H	-3	ジッシュルイ	十種類	3L	-3
ゴシュルイ	五種類	2	-3	ハックシュルイ	百種類	3	-3
ロクシュルイ	六種類	3	-3	センシュルイ	千種類	3H	-3

3.4 4拍の助数詞

すべて「-4型」に属する。

a 「-4型（促音化なし）」 段階（ダンカイ。ヒチダンカイ 3とも）、メートル（m）、連勝（レンショー）

イチダンカイ	一段階	3	-4	ナナダンカイ	七段階	3	-4
ニダンカイ	二段階	2	-4	ハチダンカイ	八段階	3	-4
サンダンカイ	三段階	3H	-4	キューダンカイ	九段階	3H	-4
ヨندانカイ	四段階	3H	-4	ジューダンカイ	十段階	3H	-4
ゴダンカイ	五段階	2	-4	ハックダンカイ	百段階	3	-4
ロクダンカイ	六段階	3	-4	センダンカイ	千段階	3H	-4

b 「-4型（促音化あり）」 週間（シューカン）

イッシューカン	一週間	3L	-4	ナナシューカン	七週間	3	-4
ニシューカン	二週間	2	-4	ハチシューカン	八週間	3	-4
サンシューカン	三週間	3H	-4	ハッシューカン	八週間	3L	-4
ヨンシューカン	四週間	3H	-4	キューシューカン	九週間	3H	-4
ゴシューカン	五週間	2	-4	ジッシューカン	十週間	3L	-4
ロクシューカン	六週間	3	-4				

4 和語系数字+助数詞

4.1 1拍の助数詞

日・人の2語のみの調査なので、そのアクセントを掲げる。

日（カなど。-1型で統一）				イチンチ	一日	4*	-1
ツイタチ	一日	4H	-1	フツカ	二日	3*	-1
イチニチ	一日	4*	-1	ミツカ	三日	3L*	-1

ヨッカ	四日	3L*	-1	ココヌカ	九日	4*	-1
イツカ	五日	3*	-1	(ココノカ ^{4*} は共通語的)			
ムイカ	六日	3H*	-1	トーカ	十日	3H*	-1
ナヌカ	七日	3*	-1	ハツカ	二十日	3*	-1
ヨーカ	八日	3H*	-1				

人(リ, ニン。三以上は漢語系数詞に付くが, ここに掲げる)				ヒチニン	七人	2	-3
ヒトリ	一人	2	-2	ハチニン	八人	2	-3
フタリ	二人	2	-2	クニン	九人	3*	-1
サンニン	三人	4H*	-1	キューニン	九人	1	-4
ヨン	四人	3*	-1	ジューニン	十人	2H	-3
ゴニン	五人	3*	-1	ヒャクニン	百人	2	-3
ロクニン	六人	2	-3	センニン	千人	1	-4

4.2 2拍の助数詞

a 「低接・-2型」 (1拍の数字につくと-2型, 2拍の数字に付くと低接[-3型]となる) 口(クチ), 桁(ケタ), 月(ツキ), 箱(ハコ)

ヒトツキ	一月	2	-3	ムツキ	六月	2	-2
フタツキ	二月	2	-3	ナナツキ	七月	2	-3
ミツキ	三月	2	-2	ヤツキ	八月	2	-2
ヨツキ	四月	2	-2	ココノツキ	九月	3	-3
イツツキ	五月	2	-3	トツキ	十月	2	-2

b 「0型」 色(イロ。色, 種類)

ヒトイロ	一色	0	-0	ムイロ	六色	0	-0
フタイロ	二色	0	-0	ナナイロ	七色	0	-0
ミイロ	三色	0	-0	ヤイロ	八色	0	-0
ヨイロ	四色	0	-0	ココノイロ	九色	0	-0
イツイロ	五色	0	-0	トイロ	十色	0	-0

4.3 3拍の助数詞

-3型に加えて, -1型(語例の「通り」は共通語では0で対応)や0型などが現れる。

a 「-3型」 掴み（ツカミ。三までのみ調査。以下同様）

ヒトツカミ	一掴み	3	-3	ミツカミ	三掴み	2	-3
フタツカミ	二掴み	3	-3				

b 「-1型」 通り（トリー。方法）

ヒトトリー	一通り	5*	-1	ミトリー	三通り	4*	-1
フタトリー	二通り	5*	-1				

c その他 「0型と-3型の併用」 回り（マワリ。周）

ヒトマワリ	一回り	3,0	-3,-0	ミマワリ	三回り	2,0	-3,-0
フタマワリ	二回り	3,0	-3,-0				

5 その他 —(数字+助数詞)+助数詞など—

「(数字+助数詞)+助数詞」のアクセントは、2つの助数詞のうち、末尾のものによって決定されるのが原則である。

a～c 「～目」はどのような数詞が前についても-1型で統一されている。

fの-4型は共通語化が原因で、本来は-3型だったのかもしれない。

a 「-1型」(「漢語系統数字～目」。数字末尾に促音化なし) 合目(ゴーム。酒。ヒチゴーム5も)、代目(ダイメ)、年目(ネンメ)、番目(バンメ)、枚目(マイメ)；時間目(時間、授業。逆算指定ですべて-1で統一)[1拍助数詞-1型に準ずる]

イチゴーム	一合目	5*	-1	ロクゴーム	六合目	5*	-1
ニゴーム	二合目	4*	-1	ナナゴーム	七合目	5*	-1
サンゴーム	三合目	5H*	-1	ハチゴーム	八合目	5*	-1
ヨンゴーム	四合目	5H*	-1	キューゴーム	九合目	5H*	-1
ゴゴーム	五合目	4*	-1	(ジューゴーム	十合目	5H*	-1)

b 「-1型」(「漢語系数字～目」。数字末尾に促音化あり)

回目（カイメ）、貫目（カンメ）、丁目（チョーメ）、本目（ホンメ、ボンメ、ボンメ）〔1拍助数詞-1型に準ずる〕

イッカイメ	一回目	5L*	-1	ナナカイメ	七回目	5*	-1
ニカイメ	二回目	4*	-1	ハチカイメ	八回目	5*	-1
サンカイメ	三回目	5H*	-1	キューカイメ	九回目	5H*	-1
ヨンカイメ	四回目	5H*	-1	ジツカイメ	十回目	5L*	-1
ゴカイメ	五回目	4*	-1	ヒヤッカイメ	百回目	5L*	-1
ロッカイメ	六回目	5L*	-1	センカイメ	千回目	5H*	-1
ヒチカイメ	七回目	5*	-1				

c 「-1型」(「和語系数字〜目」)〔1拍助数詞-1型に準ずる〕

イチニチメ	一日目	5*	-1	ナヌカメ	七日目	4*	-1
イチンチメ	一日目	5*	-1	ヨーカメ	八日目	4H*	-1
フツカメ	二日目	4*	-1	ココヌカメ	九日目	5*	-1
ミツカメ	三日目	4L*	-1	トーカメ	十日目	4H*	-1
ヨツカメ	四日目	4L*	-1	ヒヤクニチメ	百日目	5*	-1
イツカメ	五日目	4*	-1	ヒヤクンチメ	百日目	5*	-1
ムイカメ	六日目	4H*	-1	センニチメ	千日目	5H*	-1

ヒトリメ	一人目	4*	-1	ヒチニンメ	七人目	5*	-1
ヒトーリメ	一人目	5*	-1	ナナンメ	七人目	5*	-1
フタリメ	二人目	4*	-1	ハチニンメ	八人目	5*	-1
フターリメ	二人目	5*	-1	クニンメ	九人目	4*	-1
サンニンメ	三人目	5H*	-1	キューニンメ	九人目	5H*	-1
ヨニンメ	四人目	4*	-1	ジューニンメ	十人目	5H*	-1
ゴニンメ	五人目	4*	-1	ヒヤクニンメ	百人目	5*	-1
ロクニンメ	六人目	5*	-1	センニンメ	千人目	5H*	-1

d 「-3型」(日間)〔2拍助数詞低接型に準ずる〕

イチニチカン	一日間	4	-3	ナヌカカン	七日間	3	-3
フツカカン	二日間	3	-3	ヨーカカン	八日間	3H	-3
ミツカカン	三日間	3L	-3	ココヌカカン	九日間	4	-3
ヨツカカン	四日間	3L	-3	トーカカン	十日間	3H	-3
イツカカン	五日間	3	-3	ハツカカン	二十日間	3	-3

ムイカカン 六日間 3H -3

e 「-3型」(年生) [2拍助数詞低接型に準ずる]

イチネンセイ	一年生	4	-3	ヨネンセイ	四年生	3	-3
ニネンセイ	二年生	3	-3	ゴネンセイ	五年生	3	-3
サンネンセイ	三年生	4	-3	ロクネンセイ	六年生	4	-3

f 「-4型」(回戦, 年間, 分間)

本来2拍助数詞低接型の-3型だったものが、核が左にずれた可能性がある。

イチネンカン	一年間	3	-4	ナナネンカン	七年間	3	-4
ニネンカン	二年間	2	-4	ハチネンカン	八年間	3	-4
サンネンカン	三年間	3H	-4	クネンカン	九年間	2	-4
ヨネンカン	四年間	3	-4	キューネンカン	九年間	3H	-4
ゴネンカン	五年間	3	-4	ジューネンカン	十年間	3H	-4
ロクネンカン	六年間	3	-4	ヒャクネンカン	百年間	3	-4
ヒチネンカン	七年間	3	-4	センネンカン	千年間	3H	-4

g 「0型」(畳間)

1拍の助数詞には「0型」の例がなかったので、例外となる。

イチジョーマ	一畳間	0	-0	ヒチジョーマ	七畳間	0	-0
ニジョーマ	二畳間	0	-0	ハチジョーマ	八畳間	0	-0
サンジョーマ	三畳間	0H	-0	キュージョーマ	九畳間	0H	-0
ヨジョーマ	四畳間	0	-0	ジュージョーマ	十畳間	0H	-0
ゴジョーマ	五畳間	0	-0	ヒャクジョーマ	百畳間	0	-0
ロクジョーマ	六畳間	0	-0	センジョーマ	千畳間	0H	-0
ナナジョーマ	七畳間	0	-0				

参 考 文 献

角道正佳 1985 「分節音とアクセント(5)ー岡山方言の分析ー」『大阪外国語大学学報』
71-1

田野村忠温 1990 「現代日本語の数詞と助数詞」『奈良大学紀要』18

中井幸比古 2002a 『京阪系アクセント辞典』 勉誠出版

中井幸比古 2002b 「岡山県寒河方言のアクセント」 『消滅に瀕した方言アクセントの緊急調査研究 3』 科研報告書

浜野博 2008a 『日生の方言 岡山弁の異端』 手帖舎

浜野博 2008b 「『日生の方言』を出版しました」 『方言・音声研究』 1